

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地	
大阪動物専門学校天王寺校		平成19年8月30日		久保 文武		〒 543-0063 (住所) 大阪市天王寺区茶臼山町1-15 (電話) 06-6774-4311	
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地	
学校法人立志舎		平成10年10月30日		塚原 一功		〒 130-8565 (住所) 東京都墨田区錦糸1-2-1 (電話) 03-3624-5403	
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
文化・教養	動物管理専門課程	動物管理学科	平成22(2010)年度	-	平成26(2014)年度		
学科の目的	教育基本法及び学校教育法に基づき、動物に関する専門知識、職業遂行に必要な知識及び人間と動物が共生できる確かな技術を授け、併せて豊かな人間性を養い、社会に貢献しうる有能な人材を育成することを目的とする。 文化・教養専門課程においては、愛玩動物看護師法に基づき、愛玩動物を対象とした動物看護師の専門知識及び技術の習得により資質の向上を図り、広く教養を高め社会に貢献しうる愛玩動物看護師を養成することを目的とする。						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	ビジネス能力検定、全日本ハンドリング検定、家庭動物管理士、愛玩動物飼養管理士、サービス接客検定 全日本グルーミング検定(ベーシック・スタンダード・エキスパート)、OPDES(ドッグアドバイザー試験、ドッグサイエンスアドバイザー試験) ペットフード販売士検定、ペットフードマナー検定、アロマ検定 中退率 5%						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,720 単位時間 - 単位	390 単位時間 - 単位	900 単位時間 - 単位	1,125 単位時間 - 単位	- 単位時間 - 単位
	生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)			
200 人	209 人	1 人	0 %				
就職等の状況	■卒業者数(C)		104	人			
	■就職希望者数(D)		89	人			
	■就職者数(E)		89	人			
	■地元就職者数(F)		60	人			
	■就職率(E/D)		100	%			
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		67	%			
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		86	%			
	■進学者数		0	人			
	■その他						
	就職希望せず25人 (令和5年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)						
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無				
	評価団体: -	受審年月: -	評価結果を掲載したホームページURL -				
当該学科のホームページURL	https://www.tennoji-doubutsu.ac.jp/						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)						
	総授業時数		1,905 単位時間				
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		1,005 単位時間				
	うち企業等と連携した演習の授業時数		630 単位時間				
	うち必修授業時数		270 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		0 単位時間				
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間				
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		45 単位時間				
	(B: 単位数による算定)						
	総授業時数		- 単位				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		- 単位					
うち企業等と連携した演習の授業時数		- 単位					
うち必修授業時数		- 単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		- 単位					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		- 単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		- 単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		5 人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		1 人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0 人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		4 人				
	計		10 人				
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		6 人					

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

動物系企業・一般企業・動物業界団体等との連携により、動物に関する専門知識、職務等の遂行に必要となる最新の知識・技術・技能を修得し、人間と動物が共生できる確かな技術を授けるため、動物系企業・一般企業・動物業界団体等からの意見を十分にいかし、カリキュラムおよび授業運営に関する改善等の教育課程の編成を定期的に行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

1. 教育課程編成委員会を「IT」「会計」「法律」「ビジネス」「動物」それぞれの分野について各校ごとに組織する。教育課程編成委員会は、有識者および学園職員で構成する。
2. カリキュラム作成委員会を「IT」「会計」「法律」「ビジネス」「動物」それぞれの分野ごとに設置する。カリキュラム作成委員会は関連する学校、関連する学科ごとの責任者全員で構成する。
3. カリキュラム作成委員会において教育課程を作成する。
4. カリキュラム作成委員会において作成した教育課程を教育課程編成委員会全体会および各学校・各学科ごとの分科会において検討を行う。
5. 教育課程編成委員会は、カリキュラム改善への意見をカリキュラム作成委員会に提言する。
6. カリキュラム作成委員会は、その意見を組織としてカリキュラムの改善を検討吟味し決定する。
7. カリキュラム作成委員会は、教育課程編成委員会の意見を十分に生かし、カリキュラム改善等の教育課程の作成を定期的に行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
山藤 栄一 氏	特定非営利活動法人 犬の総合教育社会化推進機構 理事長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	①
田川 直樹 氏	(株)ひごペットフレンドリー 取締役 人事部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
南雲 梨沙 氏	おうちトリミングサロンひなた 店長兼トリマー	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
総村 紋加 氏	あや動物病院 動物看護師 サブチーフ	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
井手 仁貴 氏	イオン株式会社 ペテモ動物病院大日	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	③
久保 文武	大阪動物専門学校天王寺校 校長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	-

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9月、1月)

(開催日時(実績))

- 第21回 令和5年 9月25日 16:00～17:00
第22回 令和6年 1月22日 16:00～17:00
第23回 令和6年 9月18日 16:00～17:00(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

意見:グルーミング実習レポートの目安時間に余裕をもたせすぎているのではないか。

対応科目:グルーミング実習Ⅰ、グルーミング実習Ⅲ

活用状況:実際時間を記入する欄と目標時間と実際時間の差を記入する欄、未達成チェック欄を設けており、その記載内容についてもレポート評価の対象としている。また、グルーミング実習作業時間確認表に集計し、学生の作業時間を把握し、全体および個別に改善指導を行う目安時間よりも早く作業が出来るよう、常に向上心を持って授業に取り組むよう学生へ伝える。

意見:ドッグトレーナーは飼い主様の質問や要望に答え、お手本になるような犬の扱い方ができ、犬全般に関する広い知識が必要である。問題行動への対処方を学ぶべきである。

対応科目:犬の行動心理学Ⅰ、犬の行動心理学Ⅲ、しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅰ、しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅲ

活用状況:

・座学で犬の問題行動等に関するケーススタディを行う。

・ドッグトレーニング実習で学校犬、家庭犬を使ったケーススタディで学んだことを実践する。その実習内容をトレーニングカルテにまとめ、記載する。

・講師は対処法について選択制で選ばせるなど学生が考えやすい環境を作る。

意見:インターンシップ実習生は、笑顔や明るさ、清潔感、アイコンタクトが取れると言ったしぐさや第一印象の良さ、何に対しても積極性があれば良い。例えば指示に対してテキパキと行動し、次の指示を積極的に求めるような人材は好印象である。

対応科目:インターンシップ

活用状況:ホームルーム、講座開始、終了時のあいさつ、返事の指導を継続して行う。インターンシップ実習、就職活動においては、報連相と積極的な質問ができるように、授業、実習中から繰り返し啓発し、実践できるように指導する。

1月のインターンシップ実習終了後より随時個人面談を実施する。

インターンシップ自己評価表と企業からのインターン評価表を比較し、内容に乖離がある学生から優先して順次面談を実施する

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

学外の企業や組織と連携した活動を行うことで、実務者の指導の下、動物業界人としての意識を持たせる。また、業界の動向、最新の技術、知識を修得させるために、職業教育を通じ、自立した職業人を育成し社会や職業へ円滑に移行させること。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

動物業界の中にあつて、特定の分野に偏ることなく、最新の業界全体の動向を把握しうる業界団体または企業を選定し、教育部が連携して、授業内容や方法及び評価について、十分に協議し、職場に必要となる実践的かつ専門的能力を育成するため実習・演習を行う。また、レポート及び演習結果により企業等と連携し学習成果の評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
総合講座Ⅰ	最新『動物業界の現状と今後の動向について学ぶ』	株式会社 エデュワードプレス
グルーミング論Ⅰ	グルーミング実習を行うにあたり使用する用具・用品の適切な使用方法・手入れの方法や生体管理の基礎について講義を行う。	有限会社ペットPD
グルーミング実習Ⅰ	グルーミングの基礎知識として、犬の骨格・犬体名称・体温測定・耳及び爪の構造並びに手入れの方法や犬用シャンプー及びリンスの種類と効用などを講義及び実習にて学ぶ。	フランドール
犬の行動心理学Ⅰ	犬の生態や習慣、行動特徴をよく理解することで「しつけ」が犬との生活で欠かせないものであることを理解する。	有限会社エスコム
インターンシップ	実習・演習は、飼育・販売・接客・サービス等実体験に沿った内容とすることにより、職業を強く意識し、動物を扱う職業人として社会への参画を意識付けていく。	犬の幼稚園 さくら学園 本店・DOG STORY・犬ふれあいカフェ Dolbom-Dog cafe・ペットパラダイス 心齋橋筋店エレナドッグスクール・ コーワペット ペットプラザ南津守店・アムールワンカフェ・dog esthetic salon KIRARI・FREEWAN 八尾店・ケン&1羽野伊賀店・日本ライトハ ウス盲導犬訓練所ポストケンネル 本店・ペットワールドアミーゴ風 店・Pet Life トリミング アリオ風店・ひこペットフレンドリー 岸和田店・ サワダドッグトレーニングスクール・ベッソン泉北店・PETSALON ONE × ONE深井店・生駒警察犬訓練所・近畿介助犬協会・マルエスペット 富雄店・K's ドッグスクール 生駒校・ベテモ糧原店・ペットプラザ和歌 山中之島店

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 教職員研修規程に従い職員は、最新の動物に関する専門知識・技術の向上を図る必要がある。そして修得した技術と知識を、学生に提供するため研修を行う。なお、授業及び学生に対する指導力等の向上のための研修等も定期的に行っている。		
(2) 研修等の実績		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	8週までの子猫の育て方と注意したいポイント	連携企業等: ROYAL CANIN PROFESSIONAL SEMINAR in 2023
期間:	2023年7月3日(月)	対象: 大阪動物専門学校天王寺校に所属する常勤職員
内容:	猫の生体を学生に教える際の知識を習得した。「子猫の育て方～人口哺乳を中心に～、かかりやすい病気～注意すべきサインとは～」	
研修名:	犬と猫の健康寿命をのばすために	連携企業等: WJVF2023
期間:	2023年7月9日(日)から9月10日(日)	対象: 大阪動物専門学校天王寺校に所属する常勤職員
内容:	犬と猫の健康寿命をのばすために家でできる工夫やケアを獣医師や愛玩動物看護師、しつけインストラクターのそれぞれの方が講演会を開く。	
研修名:	動物取扱責任者に対する講習であり、令和5年年度・令和4年度の法改正の内容の確認及び感染症の基礎知識	連携企業等: 大阪市健康局健康推進部
期間:	11月18日(土)	対象: 大阪動物専門学校天王寺校に所属する常勤職員
内容:	法改正のおさらい(・資格要件について・定期報告届出書の提出について・帳簿の備付・販売時の表示項目・犬猫の数値規制の復習・健康診断について・令和4年度改正内容・マイクロチップ義務化・特定動物について)	
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	要支援学生の就職支援～『高等教育機関』と『支援機関』の連携について～	連携企業等: 大阪府、大学コンソーシアム大阪、南大阪地域大学コンソーシアム
期間:	2023年9月14日(木)	対象: 大阪動物専門学校天王寺校に所属する常勤職員
内容:	担当する学生が要支援学生の時にどのように対応するかを学んだ。(・富山大学の要支援学生への就労支援について・支援機関の就労について)	
研修名:	学生の文章指導に思わぬ時間がとられていますか?	連携企業等: (公財)日本漢字能力検定協会
期間:	2023年10月3日(水)・10月5日(金)	対象: 大阪動物専門学校天王寺校に所属する常勤職員
内容:	学生のレポート等の内容の向上をはかるために、そのレポートのチェックを行う職員の文章能力の向上をはかる。	
(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	JAHA年次大会 2023	連携企業等: 公益法人 日本動物病院協会
期間:	2023年7月22日(土)・23日(日)予定	対象: 大阪動物専門学校天王寺校に所属する常勤職員
内容:	専攻分野の知識向上	
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	動物取扱責任者に対する講習	連携企業等: 大阪市健康局健康推進部
期間:	2024年11月1日	対象: 大阪動物専門学校天王寺校に所属する常勤職員
内容:	取扱責任者の講習会	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校運営に関し、自己点検・自己評価委員会でまとめた評価及び改善計画が適切であるか検証するため学校関係者評価委員会を設置する。学校関係者評価委員会は原則として年1回開催する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	イ. 理念、目的、育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか） ロ. 学校における職業教育の特色は何か ハ. 理念、目的、育成人材像、特色、将来構想などが学生、保護者等に周知されているか ニ. 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2)学校運営	イ. 目的等に沿った運営方針が策定されているか ロ. 運営組織や意思決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか ハ. 教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ニ. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ホ. 教育活動に関する情報公開が適切になされているか ヘ. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	イ. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ロ. 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ハ. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ニ. キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか ホ. 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか ヘ. 授業評価の実施・評価体制はあるか ト. 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか チ. 資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか リ. 人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ヌ. 職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4)学修成果	イ. 就職率の向上が図られているか ロ. 資格取得率の向上が図られているか ハ. 退学率の低減が図られているか
(5)学生支援	イ. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか ロ. 学生相談に関する体制は整備されているか ハ. 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか ニ. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか ホ. 課外活動に対する支援体制は整備されているか ヘ. 学生の生活環境への支援は行われているか ト. 保護者と適切に連携しているか チ. 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか

(6)教育環境

イ. 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
ロ. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
ハ. 防災に対する体制は整備されているか

(7)学生の受入れ募集	イ. 学生募集活動は、適正に行われているか ロ. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか ハ. 学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	イ. 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ロ. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ハ. 財務について会計監査が適正に行われているか ニ. 財務情報公開の体制整備はできているか
(9)法令等の遵守	イ. 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ロ. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ハ. 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか ニ. 自己評価結果を公開しているか
(10)社会貢献・地域貢献	イ. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ロ. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ハ. 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等)の受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	評価していない。

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

- ・学生をインターンシップ実習で受け入れる際は、万が一を考え、店舗から与える業務は限定される。しかし、与えられた仕事を言われたこと以上にできたかを、企業は見て、実習生を判断している。また、現場や働いているスタッフの仕事を見る機会と捉えてほしい。学生はインターンシップ実習に出た際に意味のある時間とするような指導を行ってほしい。
- ・弊社でも店舗間でネットワーク上の情報共有システムがあり、セキュリティ面に注意を払い活用している。貴校でも的確にシステムを運用されていると感じた。
- ・就職した学生の受入企業の満足度を、調査するのも良いのではないか。入社後数ヶ月経過後に、企業側に調査し、その満足度を見れば学校での教育がしっかりしたものであることを、入学希望者やその保護者が知ることができるのではないか。
- ・コロナ禍で色々難しい対応が必要な中、先生方も苦労されたと思う。海外研修に行けず、学生も残念だっと思うが、その中で割り切って自分の行うべきことを考えてしっかり行動されているため、問題ない。
- ・インターネットでも立志舎や大阪動物専門学校の名前をよく目にする。学費については、私自身も資格・経歴による特待生制度を活用して学費を抑えることができたのでありがたかった。
- ・ドッグトレーニング実習のモデル犬オーナー様に対して、犬のお返しや手紙を渡すだけでなく、学生がオーナー様にリードの持ち方やしつけを実際に教える場面を作ると良いのではないか。オーナー様が喜ぶ姿を見て、やりがいやモチベーションが上がるのが期待できる。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
高橋 大二郎 氏	大東電機工業株式会社 営業部 部長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	業界関係者
畑中 学 氏	株式会社HeyDogs 代表取締役	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	業界関係者
大引 健 氏	株式会社ケイディーシー トリミング課 課長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	業界関係者
道満 直樹 氏	有限会社パッツピー・ディー 代表取締役	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	業界関係者
大西 佑来 氏	株式会社UG Dogs Comehome 店長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	卒業生
大西 里奈 氏	株式会社majun-family Natural Pet Space majun	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	卒業生
礪山 倫花 氏	オアシス動物病院 動物看護師長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	卒業生
森本 茅紗記 氏	株式会社ル・レーヴ動物病院 動物看護師長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	卒業生
丸野 莉菜 氏	株式会社AHB PetPlusSHV寝屋川店 店長	令和6年4月1日～令和7年3月31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
 (例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://all-japan.ac.jp/disclosure/>

公表時期: 令和6年6月20日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の関係者が本学全般について理解を深めるとともに、企業等の関係者との連携および協力の推進に資するため、本学の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供する。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校の教育方針、特色(ホームページ) 校長名、所在地、連絡先(ホームページ) 学校の沿革、歴史(ホームページ)
(2)各学科等の教育	設置学科、収容定員(ホームページ) 授業方法(ホームページ) カリキュラム(ホームページ) 目標取得資格、目標合格検定(ホームページ) 資格取得、検定試験合格等の実績(ホームページ) 主な就職先(ホームページ)
(3)教職員	教職員数(ホームページ)
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職支援等の取り組み支援(ホームページ)
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事への取り組み状況(ホームページ) 課外活動(ホームページ)
(6)学生の生活支援	学生相談室・就職相談室の設置(ホームページ)
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い(ホームページ) 活用できる経済的支援措置の内容(ホームページ)
(8)学校の財務	事業の概要、財産目録、資金収支計算書、事業活動収支計算書、 貸借対照表(ホームページ)
(9)学校評価	自己点検評価報告書(ホームページ) 学校関係者評価報告書(ホームページ)
(10)国際連携の状況	なし
(11)その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://all-japan.ac.jp/disclosure/>

公表時期: 令和6年6月20日

授業科目等の概要

(動物管理専門課程 動物管理学科)														
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員	企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実	校内	校外		
1	○			ビジネスマナー	社会人として必要なビジネスマナーについて学ぶ。学生としての意識・行動を顧み、社会人としての自覚や責任感を持つ。基本的なビジネスマナーを理解し組織の一員として働く留意点を学び、仕事を行う上で必要な職場における気配り・心配り・気遣いのできる社会人を目指す。	1 前	60	2	○		○	○	○	
2	○			就職ゼミナール	社会人として必要とされる基本的なものの見方や考え方・行動の仕方について理解を深め、礼儀・ビジネスマナーの修得を目標とする。講座では、面接選考の仕組みを理解し、グループディスカッション、集団面接、個別面接、最終面接の面接ポイントを理解する。また自分の過去を体系的に整理し、自己分析を行いエントリーシート・履歴書の作成や履歴書の作成に備える。本講座は、本学教員による演習と併せて、人事採用状況について精通している外部教員（各業界を代表する企業の人事担当者）の講話により構成される。	2 前	60	2	○		○	○	○	
3	○			総合講座Ⅰ	社会人として必要な一般教養を学び、簡単な計算、または会話に必要な漢字の読み書きをできるように基礎学力を身に付ける。非言語分野を中心に繰り返し演習を行い「解法」を身に付ける。	1 前	30	1	○		○	○	○	
4	○			総合講座Ⅱ	社会人として必要な一般教養を学び、簡単な計算、または会話に必要な漢字の読み書きをできるように基礎学力を身に付ける基礎講座の後、応用問題に取り組みより正確かつ迅速に演習ができるようになる。	1 後	30	1	○		○	○	○	
5	○			コンピュータ演習Ⅰ	パソコンの基本的な機器構成を学ぶとともに、Wordを中心として、Excel、PowerPoint等の操作方法や基本的な機能について学ぶ。また、WWW、E-Mail等を用いたインターネット上での情報交換・情報発信・情報収集の方法についても学ぶ。	1 後	60	2	○		○	○	○	
6	○			コンピュータ演習Ⅱ	パソコンの基本的な機器構成を学ぶとともに、Excelを中心としてPowerPoint等の操作方法や基本的な機能について学ぶ。また、WWW、E-Mail等を用いたインターネット上での情報交換・情報発信・情報収集の方法についても学ぶ。	2 後	60	2	○		○	○	○	
7	○			卒業研究	就職先の業界研究など各自の定めたテーマに沿って卒業研究の成果として提出する論文を作成する。卒業論文を完成させることを通じて、将来、テーマに精通する者として、そして一社会人として自ら考え、行動する能力を養う。	2 後	150	5	○		○	○	○	
8	○			グルーミング実習Ⅰ	グルーミングの目的を理解した上で正しい道具の扱い方を実践することで、用具・用品の適切な使用方法や手入れの方法、生体の健康チェックやグルーミングの基礎となるベーシックを中心に行う。この実習では、実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、実体験に沿って怪我のリスクなども考慮して実施し、グルーミング基礎技術を修得することを目標とする。	1 前	90	3		○	○	○	○	
9	○			グルーミング実習Ⅱ	グルーミングの基礎知識を実習に生かし、基本的な技術を身に付け迅速かつ丁寧に作業を行い、ペイズングを完了できるように実習を行う。また、犬体モデルを使用し、ケネルカットについてカット方法を身に付ける。この実習では、実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、実体験に沿って怪我のリスクなども考慮して実施し、グルーミング技術を有した職業人を育成することで社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。	1 後	90	3		○	○	○	○	
10	○			グルーミング実習Ⅲ	ブードルのカットとして、ケネル(ラム)カットを主に、一人でベーシックからクリップング、カットまで行えるように実習を行う。この実習では、実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、トリミング技術の目安となるケネルカットを実体験に沿って怪我のリスクなども考慮して実施し、より高いグルーミング技術を有した職業人を育成することで社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。	2 前	90	3		○	○	○	○	
11	○			グルーミング実習Ⅳ	ケネルカット以外のカット方法を学び、実践することで、一定の犬種にこだわらずにグルーミング対応できる人材を目指す。この実習では、実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、人気犬種のグルーミング技法を実体験に沿って行う内容とし、高度なグルーミング技術を有した職業人を育成することで社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。	2 後	30	1		○	○	○	○	
12	○			グルーミング論Ⅰ	グルーミング実習を行う際使用する用具・用品の適切な使用方法・手入れの方法や生体管理の基礎について講義、演習を行う。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、正しい道具の扱いや生体の扱いを実習に生かすことでグルーミング技術向上を図る。	1 前	30	1	○		○	○	○	
13	○			グルーミング論Ⅱ	グルーミング時に使用する用具・用品の適切な使用方法・手入れの方法や生体管理の知識を用いて、カットの基本技術を学ぶためトイブードルのケネル(ラム)クリップ技法を学ぶ。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、正しい知識のもと、実習に生かすことでグルーミング技術向上を図る。	1 後	30	1	○		○	○	○	
14	○			グルーミング論Ⅲ	グルーミングの目的と必要性を認識し、小型犬や大型犬を問わず多種多様な犬種の特徴を学ぶとともに、トリミング技術の知見を広げる。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、正しい知識のもと、実習に生かすことでグルーミング技術向上を図る。	2 前	30	1	○		○	○	○	
15	○			犬の行動心理学Ⅰ	犬の生態や習性、行動特徴をよく理解することで「しつけ」が人間社会で犬と生活するうえで欠かせないものであることを理解する。また、純粋犬種を守って後世に伝えていくという目的も有しているドッグショーにおいて、ハンドラーの役割が重要であり、犬の基本的な扱い方としてハンドリング技術を身に付ける。	1 前	30	1	○		○	○	○	
16	○			犬の行動心理学Ⅱ	犬の行動特性を学ぶうえで、様々な犬種を扱いながら犬の行動や状態、性格分析を行う。また、各犬に応じた接し方を学ぶことで、人間と犬との関係性(コミュニケーション)の築き方を学ぶ。	1 後	30	1	○		○	○	○	
17	○			犬の行動心理学Ⅲ	応用編として動物行動学や学習理論に基づき各犬の行動・性格分析を行い、適切な接し方を実践したうえで、効果的にトレーニング(犬の行動を引き出す技術)が行われているかを学ぶ。	2 前	30	1	○		○	○	○	
18	○			犬の行動心理学Ⅳ	多くの犬種の特長と様々な問題行動を理解し、その対処法からトレーニング方法を考え実施する。また、仔犬を含めた犬に対するケアと管理の方法を理解し、第三者にもアドバイスできる人材となれるよう技術を高める。また、ドッグスポーツとしてアジリティ競技を学ぶ。	2 後	30	1	○		○	○	○	
19	○			インターンシップ	生涯職業計画の指針として、職業選択、適性を見極めを目的として職場体験を行う。インターンシップ先は、原則として学生自身が希望する職業分野の企業にて行う。内容は、飼育・販売・接客・サービス等幅広い分野より選択できる。	1 後	45	1		○	○	○	○	
20	○			グルーミング研究Ⅰ	グルーミング道具を正しく使用し、ベーシックの基礎技術を高め、さらに迅速かつ丁寧なグルーミングができる技術の修得を目標とする。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、ペットサロンで必要となる知識・技術を効率的に修得する方法を実体験に基づき学ぶことでトリマーとしての職業人を目標とする。	1 前	90	3		○	○	○	○	
21	○			グルーミング研究Ⅱ	ブードルを主とした生体実習により、様々なカットの基礎技術を学び、迅速かつ丁寧なトリミングができる技術の修得を目指すとともにグルーミング技術の資格取得を目標とする。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、ペットサロンで必要となる飼育と接し方やカットのオーダー、カルテ作成などを体験に基づき学ぶことでトリマーとしての職業人を育成し、社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。	1 後	90	3		○	○	○	○	
22	○			グルーミング研究Ⅲ	小型犬や大型犬、様々な犬種の特長に応じたグルーミングの知識と技術を学ぶとともに、時間を短縮して犬に負担を掛けないトリミング技法を身に付けることを目標とする。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、スピードトリミング技術をより実践的に行うことで、高度なグルーミング技術を有したトリマーを育成することで社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。	2 前	90	3		○	○	○	○	
23	○			グルーミング研究Ⅳ	トリマーとして必要となる接客技術やお客様(お預かり犬)の情報管理、カットに必要なオーダーや時間を短縮して犬に負担を掛けないトリミング技法や、即戦力となる応用力を身に付けることを目標とする。この科目では実務経験のある教員及びトリマーとしての実務経験者により、ペットサロンで実践されているトリミング技術を行うことで、より高度なグルーミング技術を有したトリマーを育成することで社会へ円滑に移行できる施行者育成を目標とする。	2 後	30	1		○	○	○	○	
24	○			基礎獣医学Ⅰ	動物の体の組織や器官の仕組みを理解できるようにする。また、動物を取り巻く環境要因や疾病についても学ぶ。身近な動物である犬のからだ、骨格、病気について主に学び、日常の健康管理、食餌管理について学習する。	1 前	30	1	○		○	○	○	
25	○			基礎獣医学Ⅱ	動物の体の組織や器官の仕組みを理解し、動物の状態確認や応急処置に対応できるようにする。また、動物を取り囲む環境要因や主な感染症と予防についても学習する。	1 後	30	1	○		○	○	○	
26	○			基礎獣医学Ⅲ	感染症の中でも人に感染するズーノーシスについて学習する。感染経路や症状を理解し、予防できるよう学ぶ。また、主となる家庭動物である犬や猫の繁殖生理や解剖生理、遺伝について学ぶ。	2 前	30	1	○		○	○	○	

27	○	基礎獣医学Ⅳ	幼齢動物・老齢動物の飼育管理を理解するとともに、哺乳類に加え、鳥類・爬虫類の体の仕組みと特性を学び幅広い動物に対応できるようにする。さらに、産業動物、実験動物などについても理解し、課題や関連法規について学習する。	2 後	30	1	○		○		○	○
28	○	動物学	用途別に犬種を分類しその特徴や性格について研究する。併せて、猫の品種についても学習し、その性格、飼い方のポイントについて学習する。	1 前	30	1	○		○		○	○
29	○	ペットシットング実習Ⅰ	動物が身体的、精神的に健康に過ごせるよう、ペットシットングを通じて動物と飼養施設の管理について学ぶ。動物を観察し、給餌、給水を適切に行うことで、動物の健康状態の把握と維持に努める。また、飼養施設の清掃と消毒、廃棄物の処理を適切に行うことで衛生管理を行い、温度及び湿度管理をすることで動物が快適に生活できる環境づくりを身につける。さらに円滑にペットシットングが実施できるよう消毒薬や消耗品の在庫管理を行う。	1 前	45	1		○	○		○	○
30	○	ペットシットング実習Ⅱ	動物が身体的、精神的に健康に過ごせるよう、ペットシットングを通じて動物と飼養施設の管理について学ぶ。動物を観察し、給餌、給水を適切に行うことで、動物の健康状態の把握と維持に努める。また、動物の健康時と異常時の違いを認識し、異常が見受けられた場合の対応を身につける。飼養施設の清掃と消毒、廃棄物の処理を適切に行うことで衛生管理に努め、温度及び湿度を管理し、動物が快適に生活できる環境づくりを身につける。さらに円滑にペットシットングが実施できるよう消毒薬や消耗品の在庫管理を行う。	1 後	45	1		○	○		○	○
31	○	ペットシットング実習Ⅲ	動物が身体的、精神的に健康に過ごせるよう、ペットシットングを通じて動物と飼養施設の管理について学ぶ。動物を観察し、給餌、給水を適切に行うことで、動物の健康状態の把握と維持に努める。また、動物の健康時と異常時の違いを認識し、異常が見受けられた場合の対応を身につける。飼養施設の清掃と消毒、廃棄物の処理を適切に行うことで衛生管理に努め、温度及び湿度を管理し、動物が快適に生活できる環境づくりを身につける。さらに円滑にペットシットングが実施できるよう消毒薬や消耗品の在庫管理を行う。	2 前	45	1		○	○		○	○
32	○	ペットシットング実習Ⅳ	動物の飼養施設の衛生管理、温度及び湿度の管理、給餌と給水を適切に行う知識と技術を学校犬へのペットシットングを通じて身につける。さらに円滑にペットシットングが実施できるよう消毒薬や消耗品の在庫管理を行う。また、管理、指導役としてペットシットング実施者へのアドバイス、作業状態をチェックできるよう、飼養施設の管理を総合的に把握する能力を身につける。	2 後	45	1		○	○		○	○
33	○	動物関係法令	人と動物とのかわりに関する基本法「動物の愛護及び管理に関する法律」等について正しい知識を学ぶ。日本においては動物に関する法律として約20種類ほどのものがあり身近な伴侶(愛玩)動物(飼養動物)として接するもの、自然の中に生息している野生動物とて接するものとは大別できる。法律に則り、適切に動物を取り扱うことのできる人材を育成する。	1 後	60	2	○		○		○	○
34	○	家庭動物管理学	ペット販売者は、命あるペットを販売する場合には、飼い主に対し社会的責任を果たすために必要なことを十分説明する責任がある。ペット業界に携わる者として必要な動物愛護管理法に関する知識を身につける必要がある。また、トラブルを予防するための基礎知識やアフターフォローの方法も学習し、お客様に対しての接客マナーを合わせて学ぶ。更に犬と猫を中心とした病気、繁殖、フード、しつけなども学習する。	1 後	60	2	○		○		○	○
35	○	接客マナー	サービス業務に対する心構え、対人心理の理解、応対の技術、話し方、態度、振舞いなど接客技能を養う。身だしなみ、話し方や経済用語、社会常識、時事用語などの知識を身につけた上で、実際の事例を基に的確な対処ができる能力を習得する。実務技能においては、問題処理、環境整備、金品管理、金品搬送、社交業務の5分野について学ぶ。	2 前	60	2	○		○		○	○
36	○	しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅰ	人と犬の関係を歴史から理解したうえで、人と犬の関係をつなぐ用具やトレーニングの種類を学び、様々な犬とコミュニケーションが図れるよう実践する。その際、人間社会で犬と生活する上で必要となる「しつけ」とは何かを実践的に学び、「停座」「伏臥」「居座」などの「オビディエンス」の基本について学ぶ。	1 前	90	3		○	○		○	○
37	○	しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅱ	しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅰを継続し、「しつけ」の基本となる「停座」「伏臥」「居座」「招呼」「脚側行進」などの「オビディエンス」技術を身につけて実践を行う。また、実践する際に使用する用具についても適切な使用方法やタイミングであるか実践の中で学ぶ。	1 後	90	3		○	○		○	○
38	○	しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅲ	ドッグトレーナーとして様々な犬を分析、対応するだけでなく、ドッグスポーツである「アジリティ」について学習する。また、「アジリティ」に必要な訓練だけでなく、ハンドラーの動きや「コマンド」を学び、実践で行う。	2 前	90	3		○	○		○	○
39	○	しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅳ	しつけ・ドッグトレーニング実習Ⅲを継続し、オビディエンス訓練やアジリティ訓練の技術をさらに向上させる。	2 後	30	1		○	○		○	○
40	○	ペットビジネス演習Ⅰ	ペット産業、特にペットショップに従事する人材として、ペットの適正飼養の確保と推進に貢献するとともに顧客に適切なサービスを提供できる人材育成を目標とする。 飼い主がペットと長く幸せに暮らすために、ペットにとって必要な生活環境を飼い主にとって不都合でない形で提供する必要がある。この科目では実務経験のある教員が経験した実体験やペット関連イベントに基づく内容とし、ペットの選び方からお手入れ方法、しつけや健康管理、獣医療等の知識や技術を学ぶ。	1 前	60	2	○		○		○	○
41	○	ペットビジネス演習Ⅱ	ペット産業、特にペットショップ従事者として、ペットフードに関わる知識やペット共生について正しい知識を身に付け、顧客に適切なサービスを提供できる人材育成を目標とする。 この科目では実務経験のある教員が経験した実体験やペット関連イベントに基づく内容とし、栄養学を中心にペットが健康な生活を送るために欠かせないペットフードの基本的な知識やペットとの共生について学ぶ。	1 後	60	2	○		○		○	○
42	○	ペットビジネス演習Ⅲ	ペット産業は多岐にわたる人々の生活に影響している。ペットに関わる様々な分野について知識を身に付け、顧客に適切なサービスを提供できる人材育成を目標とする。 この科目では、実務経験のある教員が経験した実体験やペット関連イベントに基づく内容とし、ペットとのコミュニケーションやより良いペットとの関わり方(旅行・撮影・イベントなど)について学ぶ。また、ペット関連法規をはじめ、ペットに関わる保険について学ぶ。	2 前	60	2	○		○		○	○
43	○	ペットビジネス演習Ⅳ	ペット共生には犬・猫の高齢化に伴う様々な知識や技術が必要とされる。ペット業界全体を理解し、接客場面において相談やアドバイスを行うとともに、ペットの適正な発育と健康維持・増進に寄与できる人材を育成する。 この科目では、実務経験のある教員が経験した実体験やペット関連イベントに基づく内容とし、犬・猫の老化ポイント、食餌・排泄の介助、供養などを学習する。 また、ペットが健康で安全な生活を送る上で必要なペットフードに関わる法律や製造・保管などについても学ぶ。	2 後	15	1	○		○		○	○
44	○	ホリスティックケアⅠ	人間と同様に人と一緒に暮らすペットも「心身ともに健康」な状態を目指すことが大切である。人と動物との関わり方を学ぶとともに動物へのケアを学ぶ。また、特別介護施設等で動物介在活動を実施し、参加者とのコミュニケーションスキルを身に付けることも目標とする。 ここでは実務経験のある教員が経験した実体験や動物介在活動に基づく内容で、ペットの癒しとして自然治癒力を高めるアロマセラピーやマッサージ、ホリスティック療法を通じて身体全体のケアを学ぶ。	1 前	30	1	○		○		○	○
45	○	ホリスティックケアⅡ	人間と同様に人と一緒に暮らすペットも「心身ともに健康」な状態を目指すことが大切である。人と動物との関わり方を学ぶとともに動物へのケアを学ぶ。また、特別介護施設等で動物介在活動を実施し、参加者とのコミュニケーションスキルを身に付けることも目標とする。	1 後	30	1	○		○		○	○
46	○	ホリスティックケアⅢ	人間と同様に人と一緒に暮らすペットも「心身ともに健康」な状態を目指すことが大切である。ペットのストレス、成人病、高齢化や肥満といった人間社会と同じような社会現象も現れてきていることを理解し、さらなる知識、技術の向上を目標とする。 ここでは実務経験のある教員が経験した実体験や動物介在活動に基づく内容で、アロマセラピーの上級資格取得、東洋医学に由来する経絡とツボの理論を柱としたペットマッサージの習得、グループ討論を行うことによってコミュニケーションスキルを高めて、個々の思考能力を高める。	2 前	30	1	○		○		○	○
47	○	ホリスティックケアⅣ	飼い主の心に寄り添い、傾聴し、アドバイスを行う手法の修得と動物介在活動における社会貢献活動について取り組める人材を目標とする。 ここでは実務経験のある教員が経験した実体験や動物介在活動に基づく内容で、ホリスティックケアの集大成として、アロマセラピー、マッサージ技法、犬猫の身体・ツボおよびリンパマッサージ、犬猫の栄養学と手作り食、犬猫のストレス学、犬猫に負担の少ないグルーミングなどを総合的に学ぶ。	2 後	15	1	○		○		○	○
合計					47	科目	79 単位 (単位時間)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等
卒業要件: 成績評価において合格した科目の授業時間数の合計が1,720単位時間以上になること。なお、教育課程に定められた必修科目についてはすべて取得することを要する。		1学年の学期区分 2期
履修方法: コース選択により履修科目が決定する		1学期の授業期間 20週

- (留意事項)
- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
 - 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。
 - 次に定める授業科目の履修等は、本校各課程の修了に必要な総授業時間数の2分の1を超えない範囲で、当該課程における授業科目の履修とみなす。

科目区分	履修する専門学校	必修 選択の 別	履修科目	本校において履修したとみなす授業時数(単位数)
一般科目	大阪法律公務員専門学校天王寺校 文化教養専門課程 行政学科(1年制)	選択必	社会科学概論	40時間(2単位)
		選択必	社会科学演習	60時間(3単位)
		選択必	人文科学概論	40時間(2単位)
		選択必	自然科学概論	40時間(2単位)
		選択必	自然科学演習	40時間(2単位)
		選択必	時事研究	40時間(2単位)
		選択必	論文	40時間(2単位)
専門科目	大阪法律公務員専門学校天王寺校 文化教養専門課程 行政学科(1年制)	選択必	判断推理演習Ⅰ	100時間(5単位)
		選択必修	数的推理	60時間(3単位)
		選択必修	数的推理演習Ⅰ	100時間(5単位)
		選択必修	資料分析	40時間(2単位)
		選択必修	文章研究	40時間(2単位)
		選択必修	適性演習	40時間(2単位)
		必修	就職セミナーⅠ	20時間(1単位)
選択必修	管公庁研究	20時間(1単位)		